

ク ラ ス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2012年度 第1回 全統記述模試
学 習 の 手 引 き 【解答・解説集】
英 語

【2012年5月実施】

河合塾

【英 語】

『学習の手引き』を読むにあたって

この『学習の手引き』には、問題の解説は言うまでもなく、その問題のねらい、さらには今後の学習に役立つ指針が書かれています。この『学習の手引き』をじっくり読むことで、十分な復習をして、入試対策に万全を期してください。

1. 星印について

星印は、入試のレベルから見た場合に、それぞれの出題テーマ・設問形式において、どの程度の頻度と難易度の問題であるかを大まかに示しています。学習の目安にしてください。

- ★☆☆ 基本 難易度が低く、基礎的な内容の問題。
- ★★☆ 標準 難易度が標準的で、重要度が最も高い問題。
- ★★★ 発展 難易度が高く、応用的な内容を含む問題。

2. 解説について

【ポイント】 正答を得るための鍵となる知識や着眼点を示します。

- ▶ 追加・補足的な解説を示しています。
- ▷ 誤った解答と、それがなぜ間違っているかを示しています。

file 理解しておきたい文法・構文のワンポイント解説や、語い・熟語・語法に関する知識のまとめです。

【本文解説】 長文総合問題での英文本体の文ごとの解説です。1), 2), 3) ... は文番号を示します。

3. 『学習の手引き』で用いた略号

S	主語(原則として名詞)
V	動詞
O(O ₁ / O ₂)	目的語(原則として名詞)
C	補語(原則として名詞・形容詞・分詞)
A	前置詞の目的語
X / Y	成句の表現で共通関係にある要素
one's	人称代名詞の所有格
to do	to 不定詞
do	原形動詞・原形不定詞
doing	現在分詞もしくは動名詞
done	過去分詞
does	現在形
did	過去形
have done	完了形
that 節	接続詞 that によって導かれる節
wh-節	when / where / why / how / whether などに導かれる節
[]	言い換えることができる語句
()	省略することができる語句
/	語句・訳語などの列挙

1 Listening Comprehension

【解答】

1. (D) 2. (A) 3. (C) 4. (C) 5. (D)

【配点】(15点)

各3点×5

【放送された英文と訳】

1) You might have an image of magic as a man standing on a stage pulling rabbits out of a hat. 2) But if you knew the history of magic it might change your mind. 3) Magic has been practiced for a very long time. 4) In fact it goes back as far as 50,000 B.C. 5) Can you believe that it was 52,000 years ago that people started using magic?

6) Ancient Egyptians used amulets and rites in their magic. 7) Magic was very important to them because they believed that it would provide them with good crops, hand out suitable punishments and rewards, and keep the pharaoh happy. 8) Ancient Greeks and Romans tried to tell the future through dreams and crystal balls. 9) They also consulted priests to get information from their gods.

10) During the Middle Ages, Europeans strongly believed in magic. 11) Almost all Europeans believed in its power, while at the same time they also thought it was sinful. 12) At that time alchemists searched for two very valuable substances, the philosopher's stone and the elixir of life. 13) The philosopher's stone was believed to have the power to change iron, lead, and other metals into gold. 14) The elixir of life was a miraculous substance that could cure diseases and lengthen life.

15) From the 1500s to the 1700s, belief in magic remained widespread around the world. 16) Even highly educated people believed in its power. 17) For example, Sir Isaac Newton studied alchemy. 18) But from about 1600 on, magic began to lose our attention because of scientific advances. 19) Scientists revealed that magic was not real, but rather involved playing tricks on people's minds.

20) Magic today is very different from

what it was hundreds of years ago. 21) Some people still believe in witchcraft or still read their horoscope in the daily newspaper, but we usually enjoy it as a form of entertainment. 22) It is also with us in superstitions, such as a lucky penny or a rabbit's foot.

1) マジックとは、舞台上に立っている男性が帽子からウサギを引っ張り出すといったものだというイメージを持っているかもしれない。2) しかし、マジックの歴史を知れば、そのような考えが変わるかもしれない。3) マジックは非常に長きに渡って行われてきた。4) 実際、マジックの起源は、はるか紀元前5万年にまでさかのぼるのである。5) 人々がマジックを使い始めたのは今から5万2千年前だと信じられるだろうか。

6) 古代エジプト人は、マジックに魔よけのお守りや儀式を用いた。7) マジックは彼らにとってとても重要だったが、それはマジックが彼らに豊作をもたらし、適切な罰や報酬を与え、ファラオの幸福を維持してくれると信じられていたからだ。8) 古代ギリシア人とローマ人は、夢や水晶玉によって未来を知ろうとした。9) 彼らはまた、神の啓示を得るために神官に助言を求めた。

10) 中世の間、ヨーロッパ人はマジックを強く信じていた。11) ほとんどすべてのヨーロッパ人がマジックの力を信じていたが、その一方で同時に、彼らはマジックが罪深いものであるとも考えていた。12) 当時、錬金術師は2つの非常に貴重な物質、すなわち賢者の石と不老不死の霊薬を捜し求めている。13) 賢者の石は、鉄や鉛やその他の金属を金に変える力があると信じられていた。14) 不老不死の霊薬とは、病気を治し寿命を延ばしてくれる奇跡の物質であった。

15) 西暦1500年代から1700年代まで、マジック信仰は依然として世界中で広く見られた。16) かなり教養のある人でさえも、マジックの力を信じていた。17) 例えば、アイザック・ニュートン卿は錬金術を研究していた。18) しかし、1600年頃から、科学の進歩によりマジックは人々の関心を失い始めた。19) 科学者は、マジックとは現実のものではなく、むしろ人の思考に錯覚を起こすことを利用するものだということをはっきりとしたのだ。

20) 今日のマジックは数百年前とはかなり異なっている。 21) いまだに魔術を信じている人や、いまだに日刊紙の星占いを読む人はいるが、たいてい、私たちはマジックを一種の娯楽として楽しんでいる。 22) マジックはまた、幸運のベニー銅貨やウサギの足といったような迷信の形で残っているのである。

【語句・表現】

- practice O 「O を実行する」
- go back 「(…に起源が)さかのぼる」
- ancient 「古代の」
- amulet 「魔よけのお守り」
- rite 「儀式」
- provide O with A 「O に A を与える」
- hand O out / hand out O 「O (罰や報酬) を与える」
- suitable 「適切な」
- punishment 「罰」
- reward 「報酬」
- pharaoh 「ファラオ (古代エジプトの王)」
- crystal ball 「水晶玉」
- consult O 「O に助言を求める」
- priest 「神官」
- the Middle Ages 「中世」
- sinful 「罪深い」
- alchemist 「錬金術師」
- search for A 「A を探し求める」
- valuable 「貴重な」
- substance 「物質」
- the philosopher's stone 「賢者の石」
- the elixir of life 「不老不死の霊薬」
- iron 「鉄」
- lead 「鉛」 (/léd/ と発音することに注意)
- metal 「金属」
- miraculous 「奇跡の」
- cure O 「O を治療する」
- disease 「病気」
- lengthen O 「O を延ばす」
- remain C 「C のままである」
- widespread 「広く行き渡った, 広く見られる」
- highly 「非常に」
- educated 「教養のある」
- alchemy 「錬金術」
- attention 「注意, 関心」

- advance 「進歩」
- reveal that ... 「…であることを明らかにする」
- rather 「むしろ」
- involve *doing* 「…することを伴う」
- play tricks on A 「A を錯覚させる, A を惑わせる」
- witchcraft 「魔術」
- horoscope 「星占い」
- entertainment 「娯楽」
- superstition 「迷信」
- lucky penny 「幸運のベニー銅貨」(幸運のお守りの一種)
- rabbit's foot 「ウサギの足」(幸運のお守りの一種)

【設問別解説】

1. ★★☆☆

【放送された質問文と訳】

When was magic first used?

マジックはいつ初めて用いられたか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 約1,500年前。
- (B) 約5,200年前。
- (C) 約15,000年前。
- (D) 約52,000年前。

第4)文, および第5)文の内容より, (D)が正解。

2. ★☆☆

【放送された質問文と訳】

Which were used by ancient Egyptians in their magic?

古代エジプト人によってマジックに使われたものはどれか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 魔よけのお守り。
- (B) 作物。
- (C) 水晶玉。
- (D) 火のついたロウソク。

第6)文の内容より, (A)が正解。

3. ★☆☆

【放送された質問文と訳】

In the Middle Ages, what was the philosopher's stone believed to do?

中世において、賢者の石はどのようなことをなすと信じられていたか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 病気を治し寿命を延ばす。
- (B) 貴重な物質を捜し求める。
- (C) 鉄を金に変える。
- (D) 罪深いことをする。

第13)文の内容より、(C)が正解。

4. ★★★

【放送された質問文と訳】

Why did magic begin to lose people's attention after about 1600?

なぜマジックは、およそ1600年頃から人々の関心を失い始めたのか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) アイザック・ニュートンが錬金術を研究し始めたから。
- (B) かなり教養のある人々がマジックの力を信じていたから。
- (C) マジックは人の思考に錯覚を起こすものだということが科学者が明らかにしたから。
- (D) 人々が科学に対する興味を失い始めたから。

第18)文、および第19)文の内容より、(C)が正解。

5. ★★★

【放送された質問文と訳】

According to the passage, which statement is true?

本文によると、どれが正しい記述か。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 古代ローマ人は魔よけのお守りを使って未来を知ろうとした。
- (B) 古代ギリシア人はマジックの力を信じていなかった。
- (C) 今日、魔術を信じているものは誰もいない。
- (D) 現在、マジックは一種の娯楽だと通常考えられている。

第21)文の内容より、(D)が正解。

2 中文空所補充問題

【解答】

- (1) (㉞) (2) (イ) (3) (㉞) (4) (イ)
- (5) (イ)

【配点】(15点)

各3点×5

【出典】 *Record-Breaking Year for Ozone Hole* by Catherine Clarke Fox: kids.nationalgeographic.com

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Ozone, a gas that is produced naturally up in the stratosphere, surrounds the Earth (1) a protective blanket. 2) This ozone layer keeps us safe because it absorbs many of the sun's harmful ultraviolet (UV) rays.

- 1) 成層圏で自然に発生する気体であるオゾンは、身を守る毛布のように地球を包んでいる。
- 2) 太陽からやって来る有害な紫外線の多くを吸収するので、このオゾン層は私たちを守ってくれている。

- 1) ・Ozone と a gas that is produced naturally up in the stratosphere は同格。that is produced naturally up in the stratosphere は a gas を修飾する関係詞節。

・空所(1)については、【設問別解説】参照。

- ozone 「オゾン」
- surround O 「Oを囲む、包む」
- protective 「保護する」
- blanket 「毛布」
- ozone layer 「オゾン層」
- keep O C 「OをCにしておく」
- absorb O 「Oを吸収する」
- harmful 「有害な」
- ultraviolet (UV) rays 「紫外線」

＜第2段落＞

3) Scientists report that this year the hole over Antarctica is a record-breaker: "From September 21 to 30, the average area of the ozone hole was 10.6 million square miles (27.4 million square kilometers) — the largest (2) observed," said atmospheric scientist Paul Newman of NASA's Goddard Space Flight Center.

3) 今年、南極大陸上空のオゾンホールは記録破りだと、科学者は報告している。「9月21日から30日までの期間、オゾンホールの平均的な面積は1,060万平方マイル(2,740万平方キロメートル)で、これはそれまでに観察された最大のものでした」と、米航空宇宙局ゴダード宇宙飛行センターの大気科学者であるポール・ニューマン氏は語った。

3) ・空所(2)については、【設問別解説】参照。

- record-breaker 「記録破りのもの」
- area 「面積」
- square mile 「平方マイル」
- atmospheric scientist 「大気科学者」
- NASA's Goddard Space Flight Center 「米航空宇宙局ゴダード宇宙飛行センター」(メリーランド州グリーンベルトにあるNASAの衛星管制・通信に関するフィールドセンター)

＜第3段落＞

4) Two things (3) the record-breaking hole. 5) The first is that even though more than 180 countries agreed to phase out ODS use in 1987, there are still a lot of these substances up in the stratosphere from years past. 6) That's because they last a long, long time, some of them more than a hundred years.

4) 2つのことが記録破りのオゾンホールの主な原因となっている。5) まず、1987年に180ヶ国以上がオゾン層破壊物質の使用の段階的廃止に合意したものの、長年にわたって蓄積してきた非常に多くのこのような物質が成層圏には依然として存在しているということがある。6) それはこのような物質が非常に長い時を経ても存続し、中には100年以上存続するものもあるからだ。

4) ・空所(3)については、【設問別解説】参照。

6) ・some of them (last) more than a hundred years は they last a long, long time を追加説明している。

- even though ... 「…であるにしても」
- phase O out / phase out O 「Oを段階的に廃止する」
- substance 「物質」
- from years past 「先年から」
- that's because ... 「それは…だからだ」
- last 「存続する」

＜第4段落＞

7) The second factor has to do with clouds and cold temperatures over the South Pole. 8) "The polar stratosphere is a very cold, dry place," explains Newman. 9) "It's hard for clouds to form there. 10) But polar stratospheric clouds form when it gets extremely cold: minus 109 degrees Fahrenheit (minus 78 degrees Celsius)." 11) Newman says that's when some interesting chemistry takes place: 12) "The clouds release chlorine in a form (4) rapidly destroys ozone."

7) 第2の要因は南極を覆う雲と低温に関係がある。8) 「極域成層圏はとても冷たい乾燥した場所なのです」と、ニューマンは説明する。9) 「そこでは雲はできにくいのです。10) しかし、極端な低温時には極域成層圏雲ができるのです、華氏零下109度(摂氏零下78度)になるとね」11) それは興味深い化学反応が起こるときだとニューマンは言う。12) 「雲がオゾンを急速に破壊するような形で塩素を放出するのです」

10) ・when it gets extremely cold を minus 109 degrees Fahrenheit (minus 78 degrees Celsius) で具体的に言い換えている。

11) ・that は「華氏零下109度(摂氏零下78度)のような極端な低温時」を指している。

12) ・空所(4)については、【設問別解説】参照。

- have to do with A 「Aに関係がある」
- temperature 「気温」
- the South Pole 「南極(点)」
- polar 「極地の」
- form 「できる、形を成す」(第12)文のformは名詞で、「形」という意味)
- minus ... degrees Fahrenheit 「華氏零下…度」
- minus ... degrees Celsius 「摂氏零下…度」
- chemistry 「化学反応」
- take place 「起こる」

＜第5段落＞

13) The good news, (5), is that the situation would be a lot worse if people hadn't started doing things to protect the ozone layer. 14) By the year 2070, the big ozone holes will be a thing of the past, predicts Newman.

13) しかしながら、明るい話題は、もし人々が

オゾン層を守るためのことを始めていなかったならば、事態はもっと悪化していただろうということだ。14) 2070年までには、大きなオゾンホールは過去のものとなるだろうとニューマンは予想している。

- 13) ・空所(5)については、【設問別解説】参照。
- ・that 節内では仮定法が用いられている。ここでは、条件節の動詞に仮定法過去完了を使うことで過去の事実と反する条件を示し、帰結節の動詞に仮定法過去を使うことで現在の事実とは異なる帰結を示している。
- 【例】If he had given up both drinking and smoking then, he might be living in good health now.
- (あのとき酒もタバコもやめていれば、彼は今元気に暮らしているかもしれないのに)
- 14) ・By the year 2070, the big ozone holes will be a thing of the past は predicts の目的語となる that 節に相当し、predicts Newman は倒置になっている。a thing of the past 「過去のこと」とは、この問題が2070年にはすでに解決されていて、「(大きなオゾンホールは)なくなっている」ということ。
- the good news is that ... 「明るい話題は…だ」
 - predict O 「Oを予想する、予言する」

【設問別解説】

(1) ★★☆☆

surrounds the Earth に結びつく前置詞は？

Ozone, ..., surrounds the Earth 「オゾン層は地球を包んでいる」から、(1) a protective blanket の部分は surrounds 「囲む、包む」を修飾する副詞句であると考えるのが妥当。そこで、like を選び、like a protective blanket とすれば、「(オゾンは)身を守る毛布のように(地球を包んでいる)」となり、文意が通るので、(㉠が正解。続く第2)文の This ozone layer keeps us safe 「このオゾン層は私たちを安全にしている」からも、a protective blanket とは地球全体を包んで安全にしているものを喩えた表現だということがわかる。

(2) ★★☆☆

【ポイント】
最上級を強調する副詞は？

空所のある文ではオゾンホールが記録破りの大きさになったということが述べられている。空所に(㉠)の ever を入れて、the largest ever observed とすれば、「それまでに観察された最大のもの」という意味になり、文意が成立する。このように、ever は最上級や比較級の後で用いられて「かつて、今[それ]まで」という意味を表す。他の選択肢では意味が成立しない。

(3) ★★☆☆

【ポイント】
Two things の内容を考える

空所のある文に続く The first is that ... と第4段落冒頭の The second factor has to do with ... の内容は、それぞれ「成層圏には多くのオゾン層破壊物質がずっと存在していること」、「極寒時にできる雲がオゾン層を急速に破壊する塩素を放出すること」ということで、これは the record-breaking hole 「記録破りのオゾンホール」の2つの原因と考えられる。この2つの原因が空所の直前の Two things の内容だと考えて、空所に(㉡)の account for 「…の主な原因となる、…を説明する」を入れれば、「2つのことが記録破りのオゾンホールの主な原因となっている」となり、文意が成立する。

▷他の選択肢は以下のような意味で、どれも文意にそぐわない。

- (㉠) consist of 「…から成り立つ」
- (㉡) get over 「…を克服する」
- (㉢) result from 「…に起因する」(因果関係が逆になり、この文脈に合わない)

(4) ★★☆☆

【ポイント】
a form を修飾する節を導くものは？

空所の前に名詞 form があり、空所の後には rapidly destroys ozone が続くので、a form を先行詞とし、destroys の主語となる関係代名詞を選べばよい。したがって、主格の関係代名詞の働きをする(㉠)の that が正解。in a form that rapidly destroys ozone で「オゾン層を急速に破壊するような形で」という意味になり、文意も通る。

(5) ★★☆☆

【ポイント】
バッドニュース→グッドニュースの流れを読み取る

直前までは、「太陽からやって来る有害な紫外線を吸収して私たちを守ってくれるオゾン層に大きな穴が空いている…」という私たちにとって好ましくない内容であり、いわば“the bad news”だと言える。それに対して、The good news という書き出しで「オゾン層を守るために動き出したのだから、状況はいくらかましだ」という内容が提示されているので、「逆接」のつながりになる。したがって、(イ)の however 「しかしながら」が正解。

▷他の選択肢の意味は以下の通り。

- (ア) for example 「たとえば」
(ウ) in short 「要するに」
(エ) therefore 「それゆえ」

③ 文法・語法

【解答】

- | | | | | |
|---|---------|---------|--------|--------|
| A | 1. (ア) | 2. (ア) | 3. (ウ) | 4. (イ) |
| | 5. (イ) | 6. (イ) | 7. (ウ) | 8. (エ) |
| B | 1. free | 2. turn | | |

【配点】(20点)

A 各2点×8 B 各2点×2

【設問別解説】

A 空所補充選択問題

1. ★☆☆

The oil spill brought (about) the death of tens of thousands of birds living in that area.

「石油の流出が、その海域に住む何万羽もの鳥の死をもたらした」

- (ア) about (イ) to
(ウ) up (エ) with

【ポイント】
bring about A 「A をもたらす」

bring about A で「A をもたらす」の意味。したがって、(ア)が正解。

▷(ウ)は bring O up / bring up O で「O を育てる」の意味になるが、本問では文意が成立しないので不可。

2. ★☆☆

In 2011, Cadel Evans became the first Australian (to win) the Tour de France.

「2011年、カデル・エバンズはツール・ド・フランスで優勝した初のオーストラリア人となった」

- (ア) to win (イ) to be won
(ウ) won (エ) had won

【ポイント】
the first A to do 「…した最初の A」

the first A to do で「…した最初の A」の意味になる。したがって、(ア)が正解。win O で「O (競争・戦いなど)に勝つ、O (賞・勝利など)を勝ち取る」の意味。

▶カデル・エバンズは1977年オーストラリア・ノーザンテリトリー出身の自転車競技選手。2011年7月、オーストラリア国籍の選手としては初のツール・ド・フランス総合優勝者となった。また34歳での総合優勝は、第2次世界大戦後に開催された同レースでは最年長記録となる。

▷win の目的語が the Tour de France であることから、受動態を用いている(イ)は不可。

3. ★☆☆

I feel like crying (every time) I think about that day.

「その日のことを考えるたびに泣きたい気持ちになる」

- (ア) even (イ) over
(ウ) every time (エ) still more

【ポイント】
接続詞 every time

every time は接続詞として用いられることがあり、every time S V で「…するたびごとに」の意味になる。したがって、(ウ)が正解。

▷(ア)、(イ)、(エ)はいずれも、前半部の節(S V)と後半部の節(S V)を結ぶ接続詞としての働きがない。したがって、文構造が成立しないので不可。

4. ★☆☆

Her pride didn't allow (her to show) her disappointment in public.

「彼女のプライドが、人前で失望感を表に出すこ

とを許さなかった」

(ア) her to appear

(イ) her to show

(ウ) her that she appeared

(エ) her that she showed

【ポイント】

・ allow O to do 「Oが…することを許す、可能にする」

・ show O 「Oを表に出す」

allow O to do で「Oが…することを許す、可能にする」、show O で「Oを表に出す」の意味。したがって、(イ)が正解。

▷ appear は自動詞として appear (to be) C 「Cに見える」、appear to do 「…するように見える」などの形で用いる。

▷ allow O that S V という表現はないので、(ウ)、(エ)は不可。

5. ★☆☆

The meerkat is a small mammal (belonging) to the mongoose family.

「ミーアキャットはマンガースの仲間に属する小型哺乳動物である」

(ア) belonged

(イ) belonging

(ウ) belongs

(エ) which is belonging

【ポイント】

後置修飾の現在分詞

現在分詞 belonging 以下が「…に属している」の意味で a small mammal を修飾している。したがって、(イ)が正解。現在分詞 doing は「…している」の意味で名詞を修飾する働きがある。

▶ belong to A で「Aに属している」の意味。

▷ (エ)は、関係代名詞を用いた形として正しいように見えるかもしれないが、is belonging が進行形になってしまうので不可。belong は状態を表す動詞として、進行形にしないことに注意。

6. ★☆☆

"Do you have any more coffee?" — "Yes, please (help) yourself."

「まだコーヒーはありますか」 — 「はい、ご自由どうぞ」

(ア) make

(イ) help

(ウ) get

(エ) take

【ポイント】

help oneself (to A) 「(Aを)自分で取って飲む」

help oneself (to A) で「(Aを)自分で取って食べる[飲む/使う]」の意味。したがって、(イ)が正解。

[例] Help yourself to another piece of cake.

(ケーキをもう一切れ取って食べてください)

7. ★☆☆

She is always complaining about her room (being) too small.

「彼女は部屋が狭すぎると文句を言っただけいゝる」

(ア) is

(イ) to be

(ウ) being

(エ) has been

【ポイント】

動名詞の用法

complain about doing で「…することに文句を言う」という意味の表現。being を選ぶことで、her room が動名詞 being の意味上の主語となることを見抜く。したがって、(ウ)が正解。動名詞の意味上の主語については以下の **file** 参照。

file

動名詞の意味上の主語

動名詞の意味上の主語と文全体の主語が異なるときには、動名詞の意味上の主語を明示する。

1. 動名詞の意味上の主語が表されていない場合

1) 意味上の主語が文の主語と一致している場合

[例] Mary is very good at speaking Spanish.

(メアリーはスペイン語を話すのがとてもうまい)

* speaking の意味上の主語は文全体の主語である Mary と一致しているので、意味上の主語は表されない。

2) 一般的なことを述べている場合

[例] Knowing is one thing, teaching is another.

(知っていることと教えることはまったく別のことだ)

* Knowing / teaching はそれぞれ一般的な意味で用いられているので、意味上の主語は表されない。

2. 動名詞の意味上の主語が表されている場合

1) 動名詞の直前に名詞の所有格または目的格が置かれている場合——通例、人称代名詞および人を表す名詞

[例1] We objected to **his** [**him**] joining the team.

(彼がチームに入るのに私たちは反対した)

* joining の意味上の主語は人称代名詞である he で、文全体の主語 We とは異なるので、he の所有格 his もしくは目的格 him が joining の直前に置かれる。

[例2] I was angry at **Roy's** [**Roy**] getting married.

(私はロイが結婚することに腹を立てていた)

* getting の意味上の主語は人を表す名詞である Roy で、文全体の主語 I とは異なるので、Roy の所有格である Roy's が getting の直前に置かれる。ただし、人名の場合、そのままの形で用い、's をつけないこともある。

2) 動名詞の直前に名詞がそのままの形で置かれている場合——通例、無生物の名詞

[例] We are proud of **our school** having a long history.

(私たちは母校に長い歴史があることを誇りに思っている)

* having の意味上の主語は無生物の名詞である our school で、文全体の主語 We とは異なるので、そのままの形で having の直前に置かれる。

▶ be always *doing* は「…してばかりいる」の意味で、話し手の非難・いらだちの感情を表すことがある。

8. ★★★

Do you know (**on what**) grounds they rejected our offer?

「どういうわけで彼らは私たちの申し出を断ったのか知っていますか」

- (ア) for which (イ) in that
(ウ) as such (エ) on what

【ポイント】 on what grounds 「どういうわけで…か」

on what grounds で「どういうわけで…か」の意味。したがって、(エ)が正解。ここでの grounds は「理由、根拠」の意味。本問は on what grounds 以下が know の目的語になっている、いわゆる間接疑問文。

▷(ア)は<for which+名詞>で「どの…のために」の意味になりうるが、前置詞 for は「理由、根拠」を表す grounds とは結びつかないので不可。

▷(イ)は in that S V で「…という点で」の意味になるが、文構造・文意ともに成立せず不可。

[例] Humans differ from animals in that they can think and speak.

(人間は考えたりしゃべったりできるという点で動物とは異なっている)

▷(ウ)の as such は「そういうものとして、それ自体は」の意味があるが、文構造・文意ともに成立せず不可。

[例] I'm not against English as such. I'm against forcing children to use English.

(私は英語そのものに反対なのではない。子どもたちに無理に英語を使わせることに反対なのだ)

B 共通語補充問題

1. ★★☆☆

- a. If you have any questions, please feel (**free**) to ask.
b. At the airport shop I bought a camera (**free**) of tax.
c. In spite of the negotiations, the guerrillas wouldn't (**free**) the hostages.
a. ご質問がありましたら、ご自由にお尋ねください。
b. 空港の店で、免税でカメラを買いました。
c. 交渉のいかにもなく、ゲリラは人質を解放しようとしなかった。

【ポイント】 free の様々な意味

- a. feel free to *do* で「自由に…する」の意味。
b. free of A で「A のない」の意味。
c. free O で「O を解放する」の意味。

2. ★★★

- a. The rain will (turn) to snow after midnight.
 b. The children read out their English essays in (turn).
 c. You have to (turn) the TV off when you are not watching it.
- a. 雨は午前0時過ぎに雪になるだろう。
 b. 子どもたちは自分たちが英語で書いた作文

を、順番に声を出して読んだ。

- c. 見ていないときにはテレビを消しなさい。

【ポイント】turn の様々な意味

- a. turn to A で「A になる」の意味。
 b. in turn で「順番に」の意味。
 c. turn O off / turn off O で「O (電気・テレビなど) を消す、切る」の意味。

4 長文総合問題

【解答】

- 問1 (1-a) - (ウ) (1-b) - (エ)
 (1-c) - (イ) (1-d) - (イ)
- 問2 (ウ)
- 問3 問題は、アニメーターが作り出したバンビのスケッチが、写実的ではあるが、映画を見に行く大衆の心をつかむほどかわいくはないということだった。
- 問4 過剰に大きな目に影響されるという人間の本能的傾向は、他の動物種の扱いに対する私たちの考え方に影響を及ぼすのだろうか。
- 問5 生後14日未満のアザラシを殺すことを禁じた。(22字)
- 問6 which happens to be when
- 問7 (ア)

【配点】(60点)

- 問1 3点×4 問2 5点 問3 12点
 問4 10点 問5 10点 問6 6点
 問7 5点

【本文解説】

〈第1段落〉

1) Our attention to some animals seems to be instinctive. 2) When I give talks about human-animal relationships, I usually include a couple of slides that inevitably draw a chorus of oohs and aahs from the audience. 3) The pictures are of kittens and puppies. 4) The audience's responses to the photographs reflect a component of human nature that makes most behavioral scientists feel uncomfortable: instinct. 5) The notion that humans are instinctively drawn

【テーマ】

落語『饅頭こわい』の冒頭に「好きなモノと嫌いなモノ」についてあれこれ言い合う場面がある。「嫌いなモノ」の筆頭はヘビだ。「蛇蝎のごとく嫌う」という日本語もある。ヘビを嫌う傾向は洋の東西を問わない。本問に使った英文の後には WHY DO PEOPLE HATE SNAKES? と題されたくだりがあり、In a 2001 Gallup poll, Americans were asked about the things that make them sweat. Four of their top ten fears were of animals, with snakes at the top of the list. 「2001年のギャラップ調査で、アメリカ人が冷や汗をかくものについて問われた。彼らが怖がるモノのトップ10のうち、4つが動物で、リストの第1位がヘビだった」とある。一方、愛されるモノの代表は、問題文にある通り、子イヌや子ネコで、写真を見せられただけでも a chorus of oohs and aahs が起こる。それはなぜだろう？

【出典】 SOME WE LOVE, SOME WE HATE, SOME WE EAT: Hal Herzog

1) 一部の動物に私たちが注目するのは、本能的なことのようだ。 2) 人間と動物の関係について講演をするとき、必ず聴衆が感嘆の声をいっせいに上げるスライドを、私はたいてい2、3枚差しはさむ。 3) その画像は子ネコと子イヌのものだ。 4) その写真に対する聴衆の反応は、ほとんどの行動科学者に不快な思いをさせる人間性の1つの要素を反映している。その要素とは本能だ。 5) 何であれ赤ん坊のように見えるものに――乳幼児、子イヌ、子ガモ、つまり何にでも――人間が本能的に引

(1-a) anything that looks like a baby — infants, puppies, ducklings, you name it — is called the “cute response.” 6) The idea was first proposed by the Austrian ethologist Konrad Lorenz. 7) Young animals share features (1-b) human infants: large foreheads and craniums, big eyes, round cheeks, and soft, curving outlines. 8) Lorenz referred to these characteristics as “⁽²⁾ baby releasers” because they automatically bring out our parental urges.

かれるという考えは「キュート反応」と呼ばれる。
6) この考えはオーストリアの動物行動学者であるコンラッド・ローレンツによって初めて提唱された。7) 動物の子の容貌は人間の乳幼児と共通しており、大きなひたいと頭蓋、大きな目、丸いほほ、しなやかで曲線を描いた輪郭を持つ。8) 無意識に親としての本能を引き出すので、ローレンツはこのような特性を「ベビーリリーサー」と呼んだ。

- 2) ・ that inevitably draw ... from the audience は slides を先行詞とする関係詞節。
・ draw a chorus of oohs and aahs from the audience は直訳すれば、「聴衆から oohs and aahs (感嘆の声) の合唱を引き出す」となる。ooh と aah は、もとは「驚き、喜び、満足」を表す間投詞。
- 3) ・ The pictures are of kittens and puppies. は The pictures are pictures of kittens and puppies. の pictures の反復を避けるために pictures が省略された結果、... are of kittens ... となったと考えればよい。
- 4) ・ that makes most behavioral scientists feel uncomfortable は a component of human nature を先行詞とする関係詞節。
・ コロン (:) の後の instinct 「本能」は、直前の a component of ... most behavioral scientists feel uncomfortable 「ほとんどの行動科学者に不快な思いをさせる人間性の1つの要素」を端的に言ったもの。
- 5) ・ that humans are instinctively drawn (1-a) anything は主語 The notion の同格節だが、anything を先行詞とする関係詞節 that looks like a baby が続いており、ダッシュ (—) にはさまれた infants, puppies, ducklings, you name it が anything that looks like a baby の例を示している。you name it は「その他何でも」という意味。
・ 主語の The notion を受ける述語動詞は is called。
・ 空所 (1-a) については、【設問別解説】参照。
- 6) ・ the Austrian ethologist と Konrad Lorenz は同格。
- 7) ・ 空所 (1-b) については、【設問別解説】参照。
・ コロン (:) の後の large foreheads and craniums, big eyes, round cheeks, and soft, curving outlines は features の具体例。feature には「(目立つ) 特徴」という意味がまずあり、「顔の造り(目、鼻、口などの1つを指す)」という意味もある。さらに、通例複数形で「顔立ち、容貌」という意味を表すが、第7)文ではこれが用いられている。この他に、第25)文にあるように「呼び物[目玉]」という意味で用いられることもある。

【例】Isolation is a feature of urban life.

(孤独は都会暮らしの1つの特色だ)

The actress has a small face and delicate features.

- instinctive 「本能的な」
- give a talk 「講演する」
- include O 「O を含める、(内容に)入れる」
- a couple of A 「2, 3のA」
- slide 「スライド(写真)」
- inevitably 「必然的に、必ず」
- audience 「聴衆」
- kitten 「子ネコ」
- puppy 「子イヌ」
- response to A 「A に対する反応」
- photograph 「写真」
- reflect O 「O を反映する」
- component 「(構成)要素」
- human nature 「人間性」
- instinctively 「本能的に」
- infant 「乳幼児」
- duckling 「子ガモ」
- propose O 「O を提案する、提唱する」
- forehead 「ひたい」
- cheek 「ほほ」
- outline 「輪郭」
- refer to A as B 「A を B と呼ぶ」
- characteristic 「特性」
- automatically 「無意識に」
- bring O out / bring out O 「O を引き出す、発揮させる」

(その女優は小顔で上品な顔立ちをしている)

- 8) ・ these characteristics は large foreheads and craniums, big eyes, round cheeks, and soft, curving outlines のこと。
・ 下線部(2)については、【設問別解説】参照。
・ parental urge は「親としての本能」と訳したが、母性本能のように、親であれば本来持っているはずの、子を守り育てたいという強い願望のこと。

＜第2段落＞

9) *Bambi* is the classic example of how easily our feelings are controlled by baby releasers.
10) Walt Disney originally urged the animators working on the film to draw the baby deer as accurately as possible. 11) The problem was that the sketches of Bambi that the animators produced, while realistic, were not cute enough to grab the hearts of the movie-going public. 12) The solution was babyfication; Disney told the artists to reduce the length of Bambi's muzzle and make Bambi's head bigger. 13) Then they gave Bambi huge eyes with lots of white in them. 14) Bambi was made to look a bit like a human baby.

9) 『バンビ』はベビーリリーサーによって、私たちの気持ちがいとも簡単に支配される古典的な例だ。
10) ウォルト・ディズニーは当初、映画に取り組むアニメーターに赤ん坊のシカをできる限り正確に描くようにと要請した。 11) 問題は、アニメーターが作り出したバンビのスケッチが、写實的ではあるが、映画を見に行く大衆の心をつかむほどかわいくはないということだった。 12) 解決策は赤ん坊らしく見せることであり、ディズニーは描き手にバンビの鼻口部の長さを縮め、頭部をもっと大きくするようにと言った。 13) それで、彼らは白いところがかなりある巨大な目をバンビに与えた。 14) バンビの見かけは人間の赤ん坊に少し似ているものになった。

- 11) ・ 下線部(3)については、【設問別解説】参照。
12) ・ セミコロン(;)の後では The solution was babyfication が具体的に述べられている。
・ babyfication は「赤ん坊化すること、赤ん坊らしさを強調したものにすること」という意味。「…化(すること)」という意味の接尾辞 -fication を baby につけた語。次の例を参照。
simple 「単純な」
→ simplify 「単純化する」
→ simplification 「単純化(すること)」
13) ・ huge eyes with lots of white in them とは「白い部分が占める割合が多い巨大な目」という意味。
14) ・ was made to look は make O do の受動態 be made to do 「…させられる」を用いた形。この文は「バンビは少し人間の赤ん坊のように見えるようにさせられた」が文字通りの意味。
・ look a bit like a human baby 「人間の赤ん坊に少し似ている」の a bit は「少し、ちょっと」という意味で look like を修飾している。

- originally 「元々は、当初は」
- urge O to do 「O に…するように(強く)要請する」
- animator 「アニメーター」
- work on A 「A に取り組む」
- deer 「シカ」
- as ... as possible 「できる限り…」
- accurately 「正確に」
- grab O 「O をつかむ」
- the public 「大衆」
- solution 「解決策」
- reduce O 「O を減らす」
- length 「長さ」

＜第3段落＞

15) Mickey Mouse is a similar proof of Disney's ability to design characters that bring out our parental urges. 16) Mickey started life in 1928 as a not-so-nice trickster named Steamboat Willie. 17) (1-c) the next fifty years,

15) ミッキーマウスは、私たちの親としての本能を引き出すキャラクターをデザインするディズニーの能力を、同様に証明するものだ。 16) ミッキーは1928年に、スチームボート・ウィリーという名のそれほどかわいくないトリックスターとしてデビュー

Disney systematically changed his image. 18) To accomplish this shift to a kinder and gentler Mickey, his features became more baby-like. 19) Mickey's head grew to nearly half the size of his body, and the size of his eyes and braincase nearly doubled. 20) Does our instinctive tendency to be affected by a pair of oversized eyes affect our attitude toward the treatment of other species? 21) Of course. 22) Stephen Jay Gould, the late Harvard biologist who traced Mickey's evolution, said it best: "We are, in short, fooled by an evolved response to our own babies and we transfer our reaction to the same set of features in other animals."

一した。 17) 続く50年にわたって、ディズニーは段階的にミッキーの姿を変えた。 18) より親切で優しい姿への変化を達成するために、彼の容貌はずっと赤ん坊っぽくなった。 19) ミッキーの頭部は体のほぼ半分のサイズにまで大きくなり、目と頭蓋のサイズはほぼ倍になった。 20) 過剰に大きな目に影響されるという人間の本能的傾向は、他の動物種の扱いに対する私たちの考え方に影響を及ぼすのだろうか。 21) もちろんである。 22) ミッキーの進化をたどったハーバード大の生物学者の故ステイブン・ジェイ・グールドはいみじくも、「私たちは、要するに、自身の赤ん坊に対する進化してきた反応にだまされて、その反応を他の動物に見られる同じような特徴の組み合わせに転移させるのです」と言った。

- 15) ・ that bring out our parental urges は characters を先行詞とする関係詞節。
 16) ・ named Steamboat Willie は a not-so-nice trickster を修飾する過去分詞句。
 ・ trickster 「トリックスター」は神話や物語に登場する秩序破壊的傾向を持つ、いたずら好きな人物のことを言う。孫悟空やギリシャ神話のプロメテウスなどがその典型。
 17) ・ 空所 (1-c) については、【設問別解説】参照。
 18) ・ To accomplish ... gentler Mickey は「目的」を表す副詞用法の不定詞句。
 20) ・ 下線部(4)については、【設問別解説】参照。
 22) ・ Stephen Jay Gould と the late Harvard biologist は同格。
 ・ who traced Mickey's evolution は biologist を先行詞とする関係詞節。
 ・ said it best の it は、第20)文の質問文を肯定した第21)文の Of course. の内容 (=Of course, our instinctive tendency ... affects our attitude toward the treatment of other species.) を受けている。
 ・ an evolved response to our own babies は、具体的に言うところ「進化によって得られた、自身の赤ん坊を見て、かわいと感じる反応」のこと。筆者は、赤ん坊を見てかわいと感じるのは、それを守りたいという欲求が種の保存に有利だからであり、このことは進化によってもたらされたと考えていることが窺える。
 ・ we transfer our reaction to the same set of features in other animals 「私たちは、その反応を他の動物に見られる同じような特徴の組み合わせに転移させる」とは、動物の顔が人間の赤ん坊のような要素を持っていると、自身の赤ん坊に抱くような感情が動物の顔に対しても投影されて、かわいらしく思うということ。

- similar 「同様の」
- proof 「証拠」
- character 「登場人物、キャラクター」
- systematically 「順序立てて、段階的に」
- accomplish O 「Oを達成する」
- shift 「変化」
- baby-like 「赤ん坊のような」
- braincase 「頭蓋」
- double 「倍になる」
- tendency 「傾向」
- affect O 「Oに影響を与える」
- a pair of A 「1対のA」
- oversized 「過剰に大きな」
- attitude 「態度、考え方」
- treatment 「扱い」
- species 「(生物)種」
- the late ... 「故…、今は亡き…」
- biologist 「生物学者」
- trace O 「Oをたどる」
- evolution 「進化」
- in short 「要するに」
- fool O 「Oをだます」
- transfer O to A 「OをAに移す、転移させる」

〈第4段落〉

23) The role of cuteness in our attitudes toward animals is illustrated by public outrage over the killing of baby seals off the Atlantic coast of Canada. 24) The seals are irresistible right after they are born; for the first two weeks of their lives, their fur is pure white and their eyes dark and as deep as pools. 25) ⁽⁵⁾ In the 1970s and 1980s, photographs showing the blood-stained newborns being beaten to death with clubs were the most important features of the pamphlets and placards of anti-hunt protesters. 26) In 1987, the Canadian government gave (1-d) to public pressure — sort of. 27) They prohibited killing seal pups under fourteen days old, ⁽⁶⁾ [be / happens / to / when / which] their fur becomes darker and the animals begin to look less infantile. 28) Then it is open season. 29) The Canadians did not stop the baby seal hunt; they stopped (7).

23) 動物に対する私たちの態度におけるかわいさの役割は、カナダ大西洋沿岸沖の赤ん坊アザラシの殺戮をめぐる一般市民の激しい怒りによって例証される。 24) アザラシは誕生直後にはたまらなく愛くるしい。生後14日間は、彼らの毛皮は純白で、目は黒く水をたたえたようにうるんでいる。 25) 1970年代と1980年代には、生まれたばかりのアザラシが血まみれになって、こん棒で殴り殺されているところを写した写真は、狩猟に抗議する人たちのパンフレットとプラカードの最も重要な目玉だった。 26) 1987年に、カナダ政府は世論の圧力に屈した—いくぶんではあるが。 27) カナダ政府は生後2週間に満たないアザラシの子を殺すことを禁じたが、生まれて14日目というのは、計らずもアザラシの子の毛皮が黒味を帯びていき、それほど子どもっぽく見えなくなる時期だ。 28) そうなれば、猟は解禁ということなのだ。 29) カナダ人は赤ん坊アザラシの猟をやめたのではなく、かわいいアザラシの猟をやめたのだった。

- 23) ・ over the killing of baby seals は、public outrage を修飾する形容詞句。over は、ここでは「…についての、…をめぐるの」という意味の前置詞。

〔例〕 They often got into fights, usually as a result of disagreements over money.

(彼らはしょっちゅうけんかをしていたが、それはたいていお金のことと争った末のことだった)

- 24) ・ as deep as pools 「水たまりのように深い」は、うるんだ目を形容する決まり文句。
25) ・ 下線部(5)については、【設問別解説】参照。
26) ・ 空所(1-d)については、【設問別解説】参照。
・ 文末の sort of は、「いくぶんかは」という意味だが、これは「カナダ政府が世論の圧力に屈した」という表現に対して、「完全ではないが」という意味を付加するもの。第27)文以下を読めば、大衆が求めていた猟の禁止を政府は部分的にしか認めなかったことがわかる。
27) ・ 下線部(6)については、【設問別解説】参照。
29) ・ 空所(7)については、【設問別解説】参照。

- role 「役割」
- cuteness 「かわいさ」
- illustrate O 「O を例証する」
- outrage 「激しい怒り」
- off A 「A の沖に」
- the Atlantic 「大西洋」
- irresistible 「(たまらなく) 愛くるしい」
- right after ... 「…の直後に」
- fur 「毛皮」
- bloodstained 「血まみれの」
- newborn 「新生児」(ここでは生まれたばかりのアザラシ)
- beat O to death 「O を殴って死なせる」
- club 「こん棒」
- pamphlet 「パンフレット」
- placard 「プラカード」
- anti-hunt 「狩猟反対の」
- protester 「抗議者」
- public pressure 「世論の圧力」
- prohibit O 「O を禁じる」
- seal pup 「アザラシの子」
- infantile 「子どもっぽい」
- open season 「解禁期」

【設問別解説】

問1 空所補充選択問題 ★★☆☆

(1-a)～(1-d)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中からそれぞれ1つずつ選び、記号で答えよ。

(1-a) (ア) from (イ) on (ウ) to

(エ) without

(1-b) (ア) against (イ) by (ウ) on

(エ) with

(1-c) (ア) At (イ) Over (ウ) Until

(エ) While

(1-d) (ア) away (イ) in (ウ) out

(エ) up

【ポイント】

前置詞の用法

(1-a) 空所のある部分は主語の The notion の同格節。節内の主語が humans 「人間」、動詞が are drawn 「引かれる」、空所の後に anything that looks like a baby 「何であれ赤ん坊のように見えるもの」があることから、to を入れれば「何であれ赤ん坊のように見えるものに人間は引かれる」となる。be drawn to A で「A に引かれる、引き寄せられる」という意味。したがって、(ウ)が正解。

▷ from を選ぶと、humans が anything that looks like a baby から「引き抜かれる、選び出される」ことになり、文脈にそぐわないので不可。

(1-b) share O with A で、「O を A と共通して持つ」という意味。空所に with を入れれば、「動物の子は人間の乳幼児と容貌を共通して持つ」となり、後続部分にその具体例が記されていることから、妥当である。したがって、(エ)が正解。

(1-c) 「…にわたって」を表す Over を入れれば、ミッキーがデビューしたのが1928年で、「それに続く50年にわたってディズニーはミッキーの姿を変えた」となって、文脈に合う。したがって、(イ)が正解。

(1-d) 空所に in を入れて、give in to A 「A に屈服する」という熟語表現にすればよい。「狩猟に抗議する人たちの運動のような世論の圧力に負け、カナダ政府は限定的ではあるがアザラシの子の狩猟を禁じた」という流れとなり、文脈的にも妥当。したがって、(イ)が正解。

問2 下線部内容選択問題 ★★☆☆

下線部(2) baby releasers が表すものとして最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

(ア) 育児がどうしても続けられない人

(イ) 母性が人並み外れて豊かな人

(ウ) 親としての愛情に訴えるもの

(エ) 赤ん坊を主人公とするアニメ

【ポイント】

後続の because 節の内容をとらえる

下線部を含む第8)文では、refer to A as B 「A を B と呼ぶ」が用いられており、A に相当するのが these characteristics 「このような特性」、B に相当するのが “baby releasers” で、these characteristics = “baby releasers” の関係が成立している。these characteristics は第7)文に記された「人間の乳幼児と共通した動物の子の外見的特性」のこと。

ローレンツがこの特性を “baby releasers” と呼んだ理由は、第8)文後半の because they (= these characteristics) automatically bring out our parental urges 「それら (= 人間の乳幼児と共通した動物の子の外見的特性) が無意識に私たちの親としての本能を引き出すので」で示されていて、この内容から「人間の乳幼児と共通した動物の子の外見的特性 = 私たちの親としての本能を引き出すもの = “baby releasers”」という関係が読み取れる。したがって、(ウ)が正解。

▶ releaser とはもともと「解放者」という意味だが、ここでは生物学用語の「解発因、リリーサー」のこと。「解発」とは、動物が同種の仲間の形態・色・音声・におい・身振りなどによって、求愛・採餌・威嚇などの行動を誘発されることで、その特定の反応を引き起こす要因をリリーサー（解発因）と言う。

問3 下線部和訳問題 ★★☆☆

下線部(3)を和訳せよ。

(3) The problem was that the sketches of Bambi that the animators produced, while realistic, were not cute enough to grab the hearts of the movie-going public.

【ポイント】

・補語の that 節内の構造

・while realistic

・形容詞 + enough to do

訳出上のポイントは以下の通り。

- ・ The problem was that ... は「問題は…だった」という意味。
- ・ that the sketches of Bambi ... the movie-going public は、文全体の補語となる名詞節。that 節中は、the sketches of Bambi が関係詞節 that the animators produced によって修飾されて主語のまともりとなり、were not 以下が述部。
- ・ 挿入された while realistic 「写実的ではあったが」は譲歩を表す表現。while と realistic の間に they were を補って考えるとよい。
- ・ 名詞節内の述部の were not cute enough to grab the hearts of the movie-going public では〈形容詞+enough to do〉「…するほど〜」が用いられている。
- ・ the hearts of the movie-going public 「映画に行く大衆の心」は grab 「つかむ」の目的語。

以上から、「問題は、アニメーターが作り出したバンビのスケッチが、写実的ではあるが、映画を見に行く大衆の心をつかむほどかわいくはないということだった」と訳せばよい。

問4 下線部和訳問題 ★★★

下線部(4)を和訳せよ。

(4) Does our instinctive tendency to be affected by a pair of oversized eyes affect our attitude toward the treatment of other species?

【ポイント】
主語のまともりを見抜く

訳出上のポイントは以下の通り。

- ・ our instinctive tendency to be affected by a pair of oversized eyes 「過剰に大きな目に影響されるという人間の本能的傾向」は tendency to do 「…する傾向」を用いた表現で、主語のまともりになっている。
- ・ our attitude toward the treatment of other species 「他の動物種の扱いに対する私たちの考え方」は動詞 affect 「影響する」の目的語。
- ・ a pair of oversized eyes は文字通りには「1対の過剰に大きな目」だが、a pair of は訳に反映させなくてもよい。

以上から、「過剰に大きな目に影響されるという人間の本能的傾向は、他の動物種の扱いに対する私たちの考え方に影響を及ぼすのだろうか」と訳せばよい。

問5 下線部説明問題 ★★★

下線部(5) In the 1970s and 1980s, photographs showing the bloodstained newborns being beaten to death with clubs were the most important features of the pamphlets and placards of anti-hunt protesters. による抗議行動に対して、カナダ政府は結局どのような対応をとったか。句読点を含め、20字程度の日本語で説明せよ。

【ポイント】
第27)文の They が The Canadian government であることを見抜く

下線部は「1970年代と1980年代には、生まれたばかりのアザラシが血まみれになって、こん棒で殴り殺されているところを写した写真は、狩猟に抗議する人たちのパンフレットとプラカードの最も重要な目玉だった」という意味。showing 以下は show O doing 「O が…しているところを示す」の表現が用いられている。なお、第7)文の解説にも記したが、ここで用いられている feature は「呼び物、目玉(=目立つもの)」という意味。

生まれたてのアザラシへの残虐行為に対するカナダ政府の対応は、第27)文 They (=The Canadian government) prohibited killing seal pups under fourteen days old 「彼ら(=カナダ政府)は生後14日に満たないアザラシの子を殺すことを禁じた」に述べられている。この部分を「生後14日[2週間]未満のアザラシを殺すことを禁じた」のように、20字程度の日本語でまとめればよい。

問6 語句整序問題 ★★★

下線部(6)[be / happens / to / when / which]
の[]内の語を正しく並べ換えよ。

【ポイント】
・ happen to do
・ when と which をどこで使うか?

整序部分に先行する They prohibited killing seal pups under fourteen days old は完全な文として成立している。すると、整序部分の先頭には、節を導く接続詞、または関係詞の働きのある語として when か which のどちらかが来ることになる。節内で when は副詞、which は名詞の働きをするので、which を主

格関係代名詞として唯一の動詞候補 happens の前に置けばよい。happen は happen to do 「たまたま…する」の形式で用いられるので、happens の後に to be を置けば、which happens to be の語順が決まる。整序部分の後の their fur becomes ... look less infantile は完全な文の形式を備えているので、節を導くものとして when を整序部分の最後に置けば、be の補語の名詞節が完成する。したがって、which happens to be when が正解。

- ▶ which は非制限用法の関係代名詞で、fourteen days old が先行詞。
- ▶ when 以下は先行詞 the time が省略された関係詞節と考えることもできる。

問7 空所補充選択問題 ★☆☆

空所(7)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) the *cute* baby seal hunt
- (イ) the *large* childish seal hunt
- (ウ) the *little* adult seal hunt
- (エ) the *ugly* old seal hunt

【ポイント】
カナダ人はどんなアザラシの猟をやめたのか？

they stopped (7) の前に The Canadians did not stop the baby seal hunt 「カナダ人は赤ん坊アザラシの猟をやめたのではなかった」とある。それでは、どんなアザラシの猟をやめたのか。

「生まれたての赤ん坊アザラシのかわいさ」について記した第24)文 The seals are irresistible ... as deep as pools. と「生後間もない赤ん坊アザラシを殺すことを禁じたカナダ政府の対応」について記した第27)文前半 They prohibited killing seal pups under fourteen days old の内容から、赤ん坊アザラシのうちでも生後間もない「かわいい赤ん坊アザラシ」の猟をやめたと判断できるので、(ア)が正解。

▶ the *cute* baby seal hunt の *cute* がイタリック体になっている。これは、カナダ人がやめたのは「すべての赤ん坊アザラシの猟」ではなく、「かわいい赤ん坊アザラシの猟」だったことを強調するためである。

▷(イ)「大きな子どもっぽいアザラシの猟」、(ウ)「小さなおとなアザラシの猟」、(エ)「醜い年寄りアザラシの猟」は、いずれも文脈に合わないので不可。

5 長文総合問題

【解答】

問1 私たちが悪い人や間違った道を識別するのに役立つ神経の結合は強くなっていくのであり、それは中年のときに最も強くなりうるのだ。

問2 (イ)

問3 中年を迎える頃には、私たちは実社会における実際の人々との経験をより長い年月に渡って積んでいるだけでなく、人生や人間関係に対処するのに充てられる脳細胞も、例外的に耐久性のあるものだといえるのだ。

問4 人は、人生を歩んでいく中で、他者と触れ合い、なぜ人々がそのような振舞い方をするのかについての文化に基づく知識を身につけるのである。

問5 (イ)

問6 金銭に関わる判断を下すこと。(14字)

問7 (エ)

【配点】(60点)

問1 12点 問2 5点 問3 15点

問4 10点 問5 5点 問6 8点

問7 5点

【テーマ】

「中年」— 人生が半ばを過ぎ、体力も記憶力も衰えているのを実感し、それでも日々の雑務に追われながら必死に生きている人たち。「中年」という語を耳にすると、ついそのような姿を思い浮かべてしまうという人も少なくないだろう。「中年」という語にどこか辛く切ないイメージを抱く人もいだろう。ところが辛いことばかりでもなさそうなのだ。中年期に人生の中で最も高まる能力があるらしい。筆者は、そのような能力を、専門家の意見を交えつつ紹介している。

【出典】 *The Secret Life of the Grown-up Brain:*
Barbara Strauch

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Not long ago, when I mentioned to a friend that I was writing a book about the middle-aged brain, her first question was about the younger, trainee brains she had at home. 2) As a mother of three girls, all in adolescence, she wanted to know, in a wishful way, only one thing: Does judgment improve? 3) Do we get better at dealing with other humans, at making the right decisions?

1) つい先ごろ、中年の脳についての本を書いているところだと友人に言ったとき、彼女が最初に尋ねてきたのは、彼女の家にいる若い訓練中の脳についてであった。2) すべて思春期の3人の娘の母親として、彼女は願うかのようにただ1つのことを知りたがっていた。判断力は向上するのでしょうか。3) 他の人たちとうまくつき合えるようになるのでしょうか、適切な決断をうまく下せるようになるのでしょうか。

- 1) ・ she had at home は、the younger, trainee brains を修飾する形容詞節。the younger, trainee brains 「若い訓練中の脳」とは、第2) 文の three girls についてのこと。
- 2) ・ all in adolescence は three girls を補足的に説明している。
- 3) ・ get better at dealing ..., at making ... は、get better at *doing* 「…するのがうまくなる」を用いた表現。

- mention (to A) that ... 「(Aに) …と言う」
- adolescence 「青春期、思春期」
- wishful 「願望的な、願うような」
- judgment 「判断(力)」
- improve 「向上する」
- deal with A 「Aを扱う、Aとつき合う」
- decision 「決断」

＜第2段落＞

4) Yes — and such insight is rooted in brain biology. 5) We can now detect mature judgment in our brains — and even watch it grow. 6) The nerve connections that help us identify the bad guys or the wrong road get stronger, and they may be at their strongest at middle age.

4) 答えはイエスであり、そのような洞察は脳生物学に根ざしている。5) 今や私たちは、成熟した判断力のありかを脳内に突き止めることができる。そしてそれが発達するのを観察することさえできる。6) 私たちが悪い人や間違った道を識別するのに役立つ神経の結合は強くなっていくのであり、それは中年のときに最も強くなりうるのだ。

- 4) ・ Yes は、第2)・3) 文の疑問に対する答え。
- 5) ・ watch it grow は、watch O *do* 「Oが…するのを見る[観察する]」を用いた表現。また、it は mature judgment を指している。
- 6) ・ 下線部(1)については、【設問別解説】参照。

- be rooted in A 「Aに根ざしている」
- brain biology 「脳生物学」
- detect O 「Oを見つける、突き止める」
- mature 「成熟した」
- nerve 「神経(の)」
- connection 「結びつき、結合」
- identify O 「Oを識別する」
- middle age 「中年」

＜第3段落＞

7) Thomas Hess, a psychologist at North Carolina State University, has done dozens of studies of what he calls “social expertise,” which he finds peaks in midlife, when we are far better than those younger and older at judging the true character of others. 8) Such tricky evaluations

7) ノースカロライナ州立大学の心理学者であるトマス・ヘスは、「社会的専門技能」と彼が呼んでいるものについていくつもの研究を行ってきたが、中年期という、若い人および年を取った人のどちらよりもはるかにうまく他者の本当の性格を判断できる時期に、「社会的専門技能」はピークを迎えると言って

get easier — and ⁽²⁾ closer to the mark — as we approach middle age. 9) And it's the nature of our brain development that gives us that advantage.	いる。8) そのような微妙な評価は、私たちが中年に近づくにつれてより容易になり、またより正確になるのだ。9) そして私たちにそのような利点を与えてくれるのは、脳の発達の特質に他ならない。
---	---

- 7) ・ Thomas Hess と a psychologist ... State University は同格。
 ・ what he calls “social expertise” は、call O C 「O を C と呼ぶ」の O が what となり前に出た名詞節。what S call C で「S が C と呼ぶもの」という意味。
 ・ which he finds peaks in midlife は、(what he calls) “social expertise” を先行詞とする非制限用法の関係代名詞節。he finds (that) S peaks in midlife の S が which となり、he finds の前に出た形。なお、ここでの find は「(研究の結果) …と考える、言う」という意味。第7段落の第18)～20)文に出てくる find も同様の意味である。
 ・ when we ... of others は、midlife を先行詞とする非制限用法の関係副詞節。この節中では be good at *doing* 「…するのがうまい」の表現が比較級で用いられている。
 ・ younger *and* older は、those 「人々」を修飾する形容詞句。and をイタリック体にすることで、「若い人および年を取っている人のどちらよりも」ということを強調している。
- 8) ・ 下線部(2)については、【設問別解説】参照。
 ・ as we approach middle age の as は、「…するにつれて」という意味の接続詞。
- 9) ・ it's the ... that advantage は、the nature of our brain development を強調する強調構文。

- psychologist 「心理学者」
- dozens of A 「いくつもの A」
- social 「社会的な」
- expertise 「専門技能」
- peak 「頂点に達する、ピークを迎える」
- midlife 「中年」
- character 「性格」
- tricky 「微妙な」
- evaluation 「評価」
- approach O 「O に近づく」
- nature 「性質、特質」
- development 「発達」
- advantage 「利点」

＜第4段落＞

10) ⁽³⁾ By middle age, not only do we have more years of experience with real people in the real world but the brain cells devoted to coping with life and human relationships turn out to be exceptionally durable. 11) Scanning studies show that parts of the frontal cortex that deal more with emotional regulation atrophy less quickly than other areas of the brain as we age. 12) And it's that mix of emotional control, mental prowess, and life experience that helps us make the right decisions.	10) 中年を迎える頃には、私たちは実社会における実際の人々との経験をより長い年月に渡って積んでいるだけでなく、人生や人間関係に対処するのに充てられる脳細胞も、例外的に耐久性のあるものとわかるのだ。11) スキャニング研究によって、年を取っていくうちにも、感情の制御により深くかわる前頭部皮質部分は、脳の他の領域より衰える速度が遅いということがわかっている。12) そして、私たちが適切な決断を下すのに役立つのは、感情の制御と優れた知力と人生経験が混ざり合ったものに他ならないのである。
---	---

- 10) ・ 下線部(3)については、【設問別解説】参照。
- 11) ・ scanning study 「スキャニング研究」とは、MRI や CT スキャンなどをを用いた研究のこと。
 ・ that deal ... emotional regulation は、the frontal cortex を先行詞とする関係代名詞節。
 ・ as we age の as は、「…するにつれて」という意味の接続詞。
- 12) ・ it's that ... right decisions は、that mix of emotional control, mental prowess, and life experience を強調する強調構文。

- exceptionally 「例外的に」
- durable 「耐久性のある」
- regulation 「制御」
- mix 「混合物、混ざり合ったもの」
- mental 「知的な、知性面の」

- ・ help us make ... は、help O (to) do 「O が…するのに役立つ」を用いた表現。

＜第5段落＞

13) “Some areas of the brain that appear to be involved in processing of socioemotional information exhibit relatively less neuronal loss than other parts of the brain,” Hess told me. 14) “⁽⁴⁾ As individuals progress through life, they interact with others and acquire culturally based knowledge about why people behave the ways that they do.”

13) 「社会的感情の情報を処理することに携われると思われる脳の領域の中には、脳の他の部分より、神経細胞の損失が比較的少ないものがある」とヘスは私に言った。14) 「人は、人生を歩いていく中で、他者と触れ合い、なぜ人々がそのような振舞い方をするのかについての文化に基づく知識を身につけるのである」

- 13) ・ that appear ... socioemotional information は、Some areas of the brain を先行詞とする関係代名詞節。
・ exhibit relatively less neuronal loss は、直訳では「比較的少ない神経細胞の損失を示す」となる。
14) ・ 下線部(4)については、【設問別解説】参照。

- appear to do 「…するように思われる」
- be involved in A 「A に携われる」
- processing 「処理」
- socioemotional 「社会的感情の」
- exhibit O 「O を表す、示す」
- relatively 「比較的」
- loss 「損失」
- individual 「個人、(個々の)人」
- acquire O 「O を獲得する、身につける」

＜第6段落＞

15) “The fact that middle-aged adults appear to be the most expert is (5) notions that midlife is the time we function best,” he added. 16) “Basic cognitive abilities are still relatively high, and there’s also a fair amount of experience, so they function at high levels in everyday settings.”

15) 「中年の人が最も熟達しているように思われるという事実は、中年が最高の機能を果たす時期であるという考えと一致する」と彼は付け加えた。
16) 「基本的な認識能力は依然として比較的高く、またかなりの経験もあるので、彼らは日々の環境の中で高度に機能するのだ」

- 15) ・ that middle-aged ... most expert は、The fact に対する同格の名詞節。
・ 空所(5)については、【設問別解説】参照。
・ that midlife ... function best は、notions に対する同格の名詞節。
16) ・ they function の they は、第15)文の middle-aged adults を受けたもの。

- expert 「熟達した」
- notion 「考え」
- function 「機能する」
- cognitive ability 「認識能力」
- a fair amount of A 「かなりの(量の) A」
- setting 「環境」

＜第7段落＞

17) And those everyday settings include a wide range of activities. 18) David Laibson, at Harvard University, for example, has done fascinating studies in the emerging field of “neuro-economics” — how people use their brains to make financial decisions — and he, too, finds we’re most skillful at ⁽⁶⁾ this in middle age. 19)

17) そして、そのような日々の環境には、幅広い活動が含まれている。18) 例えば、ハーバード大学のデイビッド・レイブソンは、「神経経済学」という新興の分野で魅力的な研究を行ってきた。「神経経済学」とは、人は金銭に関する決断を下すためにどのように脳を使うのかということに関わるものである。そしてまた彼によると、私たちがこのこと

Laibson has found that when confronting complex money issues, such as mortgages or interest rates, those in middle age make the best choices. 20) In studies around the world, Laibson has found that people roughly between the ages of forty and sixty-five more easily grasp the consequences of financial decisions and have better judgment overall.

に熟練するのは中年のときであるとのことだ。19) レイブソンによると、住宅ローンや金利といったような、複雑な金銭に関する問題に直面したとき、中年の人は最善の選択をするとのことであった。20) 世界中で行われた研究でも、レイブソンは、だいたい40歳から65歳の間の人は金銭に関する決断の結果がどうなるかをより容易に理解し、概してよりよい判断力を持つと言っている。

- 18) ・how people ... financial decisions は、neuroeconomics 「神経経済学」という新興の学問分野がどのようなことを扱うのかを説明している。
 ・下線部(6)については、【設問別解説】参照。
- 19) ・when confronting complex money issues は、when they (= those in middle age) confront complex money issues ということ。
 ・complex money issues, such as mortgages or interest rates は、A(,) such as B 「(例えば) B のような A」を用いた表現。
- 20) ・roughly between ... and sixty-five は、people を修飾する形容詞句。

- include O 「O を含む」
- a wide range of A 「幅広い A」
- fascinating 「魅力的な」
- emerging 「新興の」
- financial 「財政上の、金銭に関わる」
- skillful 「熟練した」
- confront O 「O に直面する」
- complex 「複雑な」
- issue 「問題」
- mortgage 「住宅ローン」
- interest rate 「金利」
- choice 「選択」
- roughly 「およそ、だいたい」
- grasp O 「O をつかむ、理解する」
- consequence 「結果」
- overall 「概して」

＜第 8 ・ 9 段落＞

21) In fact, Laibson goes so far as to (7) the peak of all this: his research finds that those who use the best judgment in matters of personal economics are in their fifties.

22) "That seems to be the sweet spot in terms of all this," Laibson told me.

21) 実際、レイブソンはこういったことすべての最盛期を特定することさえしている。彼の研究では、個人の経済に関わる問題に対する最善の判断力を発揮する人は50代であるとされている。

22) レイブソンは「それがこういったことすべてに関するスイートスポットであるようだ」と私に言った。

- 21) ・空所(7)については、【設問別解説】参照。
 ・those who ... は「…する人々」という意味。
- 22) ・That は、「50代という時期」という内容を受けている。
 ・sweet spot 「スイートスポット」とは、本来、ゴルフクラブなどの面でそこに当たるとボールが一番よく飛ぶところを表すが、ここでは、金銭に関する最善の判断を下すことができる 50 代のことを比喩的に説明する表現として用いられている。

- in fact 「実際」
- go so far as to do 「…しさえする」
- peak 「最盛期」
- matter 「問題」
- personal 「個人的な」
- economics 「経済(学)」
- in terms of A 「A の点で(の)、A に関する」

【設問別解説】

問1 下線部和訳問題 ★☆☆

下線部(1)を和訳せよ。

- (1) The nerve connections that help us identify the bad guys or the wrong road get stronger, and they may be at their strongest at middle age.

【ポイント】

- ・ 関係代名詞節
- ・ help O do

訳出上のポイントは以下の通り。

- ・ that help ... wrong road は、The nerve connections「神経の結合」、「神経細胞の結びつき」を先行詞とする関係代名詞節。
- ・ help us identify ... は、help O (to) do「Oが…するのに役立つ」を用いた表現で、「私たちが…を識別するのに役立つ」と訳出できる。
- ・ the bad guys「悪い人(たち)」と the wrong road「間違った道」は、orによって結ばれており、共に identify の目的語となっている。
- ・ get stronger は get C「Cになる」を用いた表現。
- ・ they may be の they は、前半部の主語である The nerve connections であることに注意。
- ・ be at their strongest は「最も強くなる」という意味。

以上から、「私たちが悪い人や間違った道を識別するのに役立つ神経の結合は強くなっていくのであり、それは中年のときに最も強くなりうるのだ」と訳出できる。

問2 下線部意味選択問題 ★☆☆

下線部(2) closer to the mark の意味に最も近いものを、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) less energetic
(イ) **more accurate**
(ウ) nearer to the person
(エ) more easily forgotten

【ポイント】

close to the mark

close to the mark とは、「的に近い」、「ほぼ正確な」という意味。よって、closer to the mark は「より正

確な」という意味になる。これに最も近い意味を表すものは、(イ)の more accurate「より正確な」である。

▶ 下線部を含む文は、Such tricky evaluations が主語、get が動詞、easier と下線部の closer to the mark が共に補語となっている。その構造を把握できれば、close to the mark という表現を知らなくても、Such tricky evaluations を説明する表現であり、かつ easier と and によって結ばれても文脈上不自然でないものを求めることになるので、正解を得ることは可能である。

▷ 他の選択肢は、(ア)の less energetic が「より精力的でない」、(ウ)の nearer to the person が「その人により近い」、(エ)の more easily forgotten が「より容易に忘れられる」という意味。

問3 下線部和訳問題 ★☆☆

下線部(3)を和訳せよ。

- (3) By middle age, not only do we have more years of experience with real people in the real world but the brain cells devoted to coping with life and human relationships turn out to be exceptionally durable.

【ポイント】

- ・ not only ... but ~
- ・ not only に続く倒置形
- ・ 過去分詞句による後置修飾
- ・ turn out to be C

訳出上のポイントは以下の通り。

- ・ By middle age は、「中年を迎える頃には」、「中年までに」と訳出するのがよい。by が時間や時期について用いられる場合は、「…までに」という意味になる。
- ・ not only ... but ~ 「…だけでなく～も」という表現が文と文を結びつける場合、not only の直後にくる文は倒置形(＝疑問文の語順)になる。ここでは do we have ... となっている。
- ・ with real people は、more years of experience「より長い年月に渡る経験」を修飾する形容詞句。
- ・ devoted to coping with life and human relationships は、but 以下の主語である the brain cells を修飾する過去分詞句。devoted to ... は「…に充てられる」、「…に向けられる」などと訳出すればよい。また、life と human relationships は and によって結ばれ、共に coping with につながっているこ

とも注意。

- ・ turn out to be ... が but 以下の述部で, turn out to be C で「C であるとわかる, 判明する」という意味。C にあたる exceptionally durable は、「例外的に耐久性のある」という意味。

以上から、「中年を迎える頃には、私たちは実社会における実際の人々との経験をより長い年月に渡って積んでいるだけでなく、人生や人間関係に対処するのに充てられる脳細胞も、例外的に耐久性のあるものだ」と訳出できる。

問 4 下線部和訳問題 ★★★

下線部(4)を和訳せよ。

(4) As individuals progress through life, they interact with others and acquire culturally based knowledge about why people behave the ways that they do.

【ポイント】

- ・ as S V
- ・ the ways that they do の処理

訳出上のポイントは以下の通り。

- ・ As individuals progress through life は副詞節。ここで用いられている接続詞 as は「…するにつれて、…する中で」などと訳出する。
- ・ progress through life は、直訳では「人生を通して進んでいく」となるが、「人生を歩んでいく」のように訳出すれば自然な日本語になる。
- ・ they が主語, interact with others と acquire culturally ... they do が述部。interact with A で「A と触れ合う, A と交流する」という意味。
- ・ acquire の目的語は culturally based knowledge about why people behave the ways that they do である。culturally based knowledge とは、その文化に固有の規範を前提にした上での知識ということだが、「文化に基づく知識」、「文化に基盤を置いた知識」のように訳せばよい。about why ... they do は、culturally based knowledge を修飾する形容詞句。
- ・ why people behave the ways that they do は about の目的語となる名詞節。
- ・ the ways that they do は、behave を修飾する副詞句で、the way(s) that S V ... 「…するやり方で、…するように」を用いた表現。do は代動詞で behave を受けている。よって、why people behave the

ways that they do は、直訳では「なぜ人々は彼らが振舞うようなやり方で振舞うのか」となるが、「なぜ人々はそのような振舞い方をするのか」と訳出すると自然な日本語になる。

以上から、「人は、人生を歩んでいく中で、他者と触れ合い、なぜ人々がそのような振舞い方をするのかについての文化に基づく知識を身につけるのである」と訳出できる。

問 5 空所補充選択問題 ★★★

空所(5)に入れるのに最も適当なものを、次の(ア)～(エ)の中から 1 つ選び、記号で答えよ。

- (ア) contradictory to
- (イ) consistent with
- (ウ) irrelevant to
- (エ) independent of

【ポイント】

空所の前後にある、The fact that middle-aged adults appear to be the most expert と notions that midlife is the time we function best の関係は？

空所の前にある The fact that middle-aged adults appear to be the most expert は「中年の人が最も熟達しているように思われるという事実」という意味であり、空所の直後にある notions that midlife is the time we function best は「中年が最高の機能を果たす時期であるという考え」である。空所を含む文は心理学者 Hess の発言であるが、彼はその後の第16)文で「基本的な認識能力は依然として比較的高く、またかなりの経験もあるので、彼ら(=中年の人)は日々の環境の中で高度に機能する」と補足している。したがって、(イ)の consistent with 「…と一致する、…と矛盾しない」を空所に入れば、Hess の考えを正しく表す文となる。

▷ 他の選択肢は、(ア)の contradictory to が「…と矛盾した」、(ウ)の irrelevant to が「…と無関係の」、(エ)の independent of が「…から独立した」という意味である。

問 6 下線部内容説明問題 ★★★

下線部(6) this の内容を、句読点を含め、15字以内の日本語で説明せよ。

2. ★☆☆

【ポイント】

- so ... that ~ 構文
- be absorbed in A
- find oneself doing

与えられた語群より、「私は本にとっても夢中になっていたので、…」と考えて、so ... that ~「とても…なので～」の構文を用いて書くことになる判断する。前半部は be absorbed in A「Aに夢中になっている」を用いて、I was so absorbed in a book that ... とする。後半部の「気がついたら夜明けだった」は find oneself doing「気がつくと…している」を用いて、I found myself reading it at daybreak とし、これを that 以下に置く。以上から、I was so absorbed in a book that I found myself reading it at daybreak. が正しい語順となる。

3. ★☆☆

【ポイント】

- A as well as B
- 代名詞 those

まず、「反映しなければならない」は must reflect で表す。続いて「反対派の意見」は、the views of A「Aの意見」を用いて the views of the opposition とし、目的語として reflect の直後に置く。最後に、「政府だけでなく」の部分だが、「政府」は「反対派の意見」とバランスをとって「政府の意見」になると考え、those (= the views) of the government とする。「…だけでなく」は、A as well as B「Bだけでなく A も」の表現を用いて、A に the views of the opposition, B に those of the government がくる形にする。以上から、Newspapers must reflect the views of the opposition as well as those of the government. が正しい語順となる。

▶ those of the government の those は名詞の反復を避けるための代用語である。代用語の that / those については以下の **file** 参照。

file 代用語としての that / those の用法

that / those が前出の名詞を反復して用いるのを避けるために用いられる場合がある。その場合、「that / those + 修飾要素（前置詞句 / 分詞句 / 関係詞節など）」の形で用いられる。

[例1] The English spoken in Boston sounds different from **that** spoken in Nevada.

= the English の代用

(ボストンで話されている英語はネバダで話されている英語と違うように聞こえる)

[例2] The goods in this store are cheaper than **those** in the department store.

= the goods の代用

(この店の商品は、デパートの商品よりも安い)

4. ★★★

【ポイント】

- not ... as + 原級 + as S would like

まず主語の「物事は」は、things で表す。続いて、「単純明快なものではない」は、cut and dried「決まり切った、(問題などが)単純な」を用いて、are not cut and dried と考える。最後に、「多くの人たちがそうあってほしいと思うほどには(単純明快なものではない)」は、not ... as + 原級 + as S would like「S がそうあってほしいと思うほどには…ない」の構文を用い、are not as cut and dried as many people would like とする。本問では cut and dried が原級の形容詞なので、as cut and dried as ... の語順になることに注意。以上から、Unfortunately, things are not as cut and dried as many people would like. が正しい語順となる。

B 条件英作文

【解答例】

1. *He* (resembles his father in character).
2. *It was not* (until I got home that I realized I had left my umbrella) *at school*.

【配点】(14点)

1. 6点 2. 8点

【解説】

1. ★☆☆

【ポイント】

- ・ resemble の語法
- ・ 「性格が」をどう表すか？

・ 「似ている」は resemble を用いるとよいが、この動詞は他動詞なので、He resembles to his father ... としないように注意する。このように自動詞と間違えやすい他動詞については、以下の **file** を参照。また、resemble は状態を表す動詞で通例、進行形をとらない。したがって、He is resembling his father ... としないように注意。

file 自動詞と間違えやすい他動詞

日本語の言い回しにつられて、動詞の直後に前置詞をつける誤り（自動詞との間違い）を犯しやすい代表的な他動詞は以下のとおり。

- ・ answer O 「Oに答える」
- ・ approach O 「Oに近づく」
- ・ attend O 「Oに出席する」
- ・ discuss O 「Oについて議論する」
- ・ enter O 「Oに入る」
- ・ marry O 「Oと結婚する」
- ・ mention O 「Oについて言う」
- ・ reach O 「Oに着く」
- ・ resemble O 「Oに似ている」

▶ resemble を用いずに、He is like his father ... / He takes after his father ... としてもよい。

▷ 外見が似ているわけではないので、He looks like his father ... とするのは不可。

・ 「性格が」は「性格の観点で」と考えて、in character / in terms of character とするのがよい。

2. ★☆☆

【ポイント】

- ・ 「…してはじめて～する」の表現
- ・ 「傘を忘れる」の表し方

・ 「…してはじめて～する」は、It is not until S V ... that S' V'~. を用いて表すことができる。

[例] It was not until he lost everything that he realized how lucky he had been.

(すべてを失ってはじめて彼は自分がどれほど幸運だったかに気がついた)

本問は、It was not until I got home that I realized [found / noticed] ... とすればよい。

- ・ 「家に着く」は get to home としないように注意。home は「家に」という意味の副詞として用いる。
- ・ 「学校に傘を忘れる」は leave one's umbrella at school を用いる。このように「(場所に) O (物) を置き忘れる」は <leave O (+場所を表す副詞語句)> を用いて表す。

▷ forget は通例「持ってくる[いく]のを忘れる」という意味で用いるので、ここでは好ましくない。

[例] I've forgotten my wallet.

(財布を持ってくるのを忘れた)

C 本格英作文

【解答例】

When I take from a bookshelf an old book that I read in my childhood, and turn the pages, my memories come flooding back. But I don't believe e-books have the same power.

【別解】 If you take from your bookcase old books which you read when you were a child and turn the pages, old memories come rushing back to you. But I don't think e-books have the same kind of power.

【配点】(15点)

【解説】

★★★

【ポイント】

- ・下線部前半の主語を何にすればよいか？
- ・「古びた」、「めくってみる」をどう表すか？

●「子どものころに読んだ古びた本」

・「古びた本」は an old book / old books とする。単数形、複数形のどちらでもよい。ただし、定冠詞をつけて the old book とすると、子どもの頃に本を1冊しか読んでいないことになるので不自然。また、the old books とすると、子どもの頃に読んだすべての本を本棚から抜き出すという意味合いになる。「古びた」はここでは「古そうに見える」ではなく「古い」という意味なので old で十分。本問での「古びた」を old-looking などとすると、自分の所有物である本に関して「いつの本かわからないが古そうに見える」という印象を持つことになり、不自然な英文になる。

・「子どものころに読んだ」は (which / that) I read in my childhood が適切。関係詞節の主語を I にすると筆者の個人的な経験を語る文になり、you を用いると一般論を述べた文となる。we を用いると、あたかも歳の近い兄弟姉妹が幼い時に読んだ本について言及しているような表現となるため、避けるべき。「読んだ」は read を使えばよい。時制は過去形を用いる。現在完了形は「子どものころに」という過去を表す表現と同時に用いることはできないし、過去完了形にする理由はまったくない。「子どものころに」は in my childhood のほかに、「子どもだった時」と読みかえて when (I was) a child や as a child とするのもよい。

●「(…を) 本棚から抜き出してページをめくってみる」と

・「本棚から抜き出して」の「本棚」は bookcase を用

いる。bookcase を構成する1つの棚を意味する bookshelf としてもよい。「抜き出す」の訳語は「O を本棚から選んで取る」という意味の take O from a bookcase が自然な表現。ただし、本問では目的語が長くなるので take from a bookcase O という語順が好ましい。pick out O from a bookcase とするのは不適。元来、pick out は「選ぶ」の意味であり、物理的に本棚から抜き出す動作が表されないからだ。「本棚」は通常複数あると考えられるので a bookcase / one of my[your] bookcases のようにするのが好ましいが、my[your] bookcase / the bookcase とするのでも可とする。

・「ページをめくってみる」との「ページをめくる」は turn the pages が最も自然。「…すると」は when または if を用いて表現できる。ただし if を用いる場合も、古い本のページをめくるという十分ありうる状況についての記述なので、仮定法ではなく直説法を用いて節内を現在形にすることに注意。したがって when I ... and turn the pages や if you ... and turn the pages とするのがよい。なお「…してみる」を try to do / try doing などと表すのはここでは誤り。try to do は「…するように努力する」という意味を、try doing は「試しに…してみる」という意味を表すが、本問ではそのような「努力」や「試し」の含意はなく「(ただ単に / 何の気なしに) ページをめくってみる」という意味である。

●「思い出がよみがえるが」

・「思い出」は (my) memories / old memories のように複数形にすること。これはページをめくることで、その本にまつわる数々の出来事を思い出していることを示している。これに対して単数形の my memory はここでは「私の記憶力」という意味にとられてしまい、誤解を生む表現になる。

・「よみがえる」は come back (to) で表すことができる。これに flooding[rushing]「どっと押し寄せるように」をつけて come flooding[rushing] back

とすると自然な表現になる。

- ・「思い出がよみがえる(が)」の英訳が難しければ、全体を「子ども時代を思い出す」と解釈して I remember my childhood などのように書いてもある程度近い意味を表すことができるが、前述のとおり、本のページをめくってよみがえる思い出はその本にまつわる数々の思い出であり、子ども時代全般の思い出ではないはずなので、正確な言い換えとは言い難い。

●「電子書籍にそんな力があるとは思えない」

- ・「とは思えない」は「私は…とは思わない」と考えて I don't think ... / I don't believe ... などで表すとよい。ここは明らかに筆者の考えを述べている箇所なので、主語は I を用いる。また、「…とは到底想像できない」と考えて、It's inconceivable that ... / I can't imagine ... とするの也可。
- ・「…にそんな力がある」はそのまま have the same (kind of) power と表現すればよい。「読者に同じような影響を与えることができる」と読みかえて can have the same (kind of) effect on readers とすることもできる。

【全訳例】

Are paper books doomed to disappear because of e-books? Various kinds of dictionaries, many masterpieces from all over the world, both old and new, and even comic books are now available on smart phones and e-tablets. Can this be called progress? When I take from a bookshelf an old book that I read in my childhood, and turn the pages, my memories come flooding back. But I don't believe e-books have the same power.

受験直後の復習が大きな差を生む!!

自己採点シート

第1回 全統記述模試

クラス	番号	氏名

【シートの使い方】

- ①問題冊子と「学習の手引き」にしたがって自己採点してみましょう。
 ②満点に対してどれだけ得点できたかを設問ごとに比較し、「特に克服・補強すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。
 ③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え、「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。
 →さらに個人成績表の返却後、統計集にしている「見直しシート」を活用して、復習を完全にしましょう!!

総合計(第1回全統記述模試)

実践の得点

自己採点

成績表の返却後、得点を記入しましょう。

教科・科目	設問ごとの得点							合計	今後の課題と学習プラン	第1回全統記述模試 得点
	1	2	3	4	5	6	7			
英語	リスニング	中文空所補充	文法・語法	長文総合問題	長文総合問題	英作文				
	/15 ☆	/15 ☆	/20 ☆	/60 ☆	/60 ☆	/45 ☆		/200		/200
数学 Ⅰ・ⅠA型	小問集合	2次関数	場合の数							
	/60 ☆	/40 ☆	/40 ☆					/100		/100
数学 ⅡA・ⅡB型	小問集合	図形と方程式	微分法	2次関数	場合の数	平面ベクトル				
	/50 ☆	/50 ☆	/50 ☆	/50 ☆	/50 ☆	/50 ☆		/200		/200
数学 ⅢB・ⅢC型	小問集合	数列の極限	場合の数	図形と方程式	平面ベクトル	関数の極限	行列			
	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/200		/200
現代文型	現代文(評論)	現代文(評論)	現代文(評論)	現代文(評論)	現代文(評論)	現代文(評論)				
	/60 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/40 ☆	/50 ☆	/50 ☆		/150		/150
現・古型 現・古・漢型	現代文(評論)	現代文(評論)	古文(作り物語)	漢文(蘭書)	現代文(評論)					
	/60 ☆	/40 ☆	/50 ☆	/50 ☆	/50 ☆			/200		/200
物理	等速運動・等速運動	仕事と力学的エネルギー	弦の性質							
	/33 ☆	/34 ☆	/33 ☆					/100		/100

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

受験直後の復習が大きな差を生む!!

シーンの使い方

- ①問題冊子と「学習の手引き」に当たって自己採点してみよう。
②満点に対してどれだけ得点できたかを設問ごとに比較し、「特に克服・補強すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。
③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え、「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。
④さらに個人成績表の返却後、統計集についている「見直しシート」を活用して、復習を万全にしましょう。

教科・科目	1	2	3	4	5	6	7	合計	今後の課題と学習プラン
化学	元素の周期表	酸・塩基	電気分解	有機化学(炭化水素)				/100	
生物	藻類	発生	体液	遺伝				/100	
地学	太陽系の天体	地球表層の構造	マグマと火山岩	地質調査とボーリング	大気の大気運動			/100	
世界史B	古代文明の発生と環境	3～7世紀のヨーロッパ世界	ローマ帝国と世界との接触と交流	中世史の人物とその時代				/100	
日本史B	原始・古代の食料獲得技術の進展	朝鮮半島をめぐると古代の日中交渉	儒教と浄土教	中世の兵乱				/100	
地理B	世界の地形と自然災害	民族と言語・宗教	農林水産業	アジア地誌				/100	
政治・経済	現代世界の諸問題と課題	人権保障の歴史と人権思想	権力分立と比較政治体制	日本国憲法の統治機構	日本経済の現状と課題			/100	
倫理	西洋の道徳思想	仏教の受容と展開	近代的人間観の形成	現代社会の特質	青年期の自己形成			/100	

↓

↓

↓

↓

↓

↓

↓

↓

第1回全統記述模試
得点

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

井ノ上

廿二

